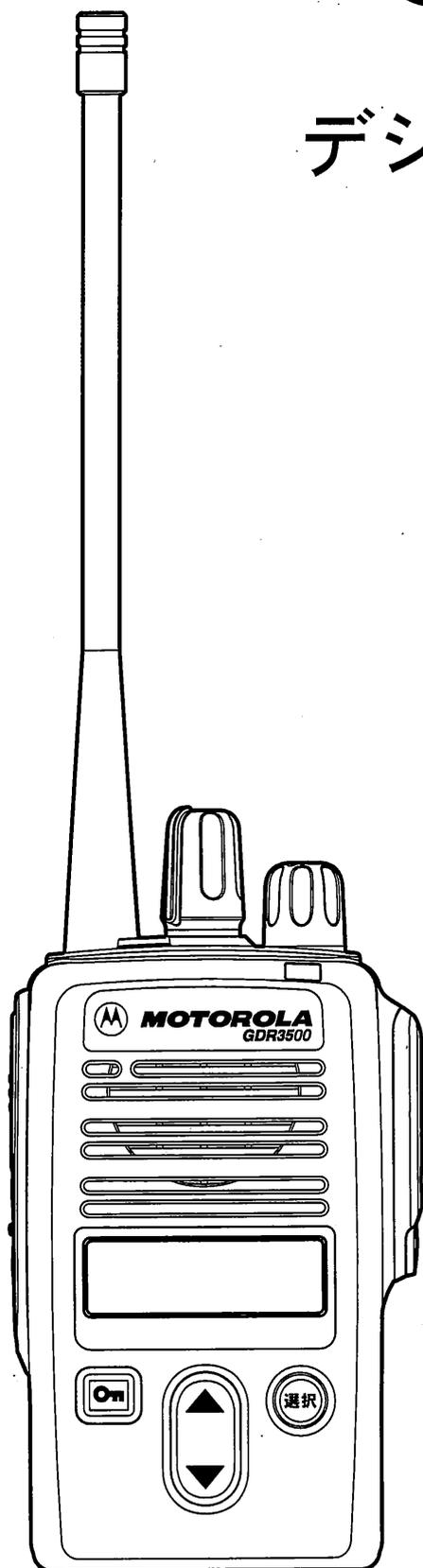
デジタル簡易無線 登録局

GDR3500

無線局種別コード：3R
4値FSK変調

取扱説明書

デジタル簡易無線機の保証と責任

I. 保証対象及び保証期間:

本デジタル簡易無線機器は、株式会社バーテックススタンダード(以下「バーテックススタンダード」といいます)で製造されたものです。
株式会社スタンダード(以下「スタンダード」といいます)は、正常な使用状態で下記のデジタル簡易無線機器(以下「製品」といいます)の材料上又は製造上の欠陥に対し、ご購入日より以下に示す保証期間内の保証を行います。

無線機本体 .... 2 年間
アクセサリ(電池パック、アンテナ、充電器、ベルトクリップ等を含む) .. 1 年間

スタンダードは本保証規定に従い、保証期間内は無料で製品の修理(純正部品を用いて)、交換を致します。　本体またはアクセサリの保証期間に関しましては、お客様がご購入になった製品の保証期間で算定されます。　交換した製品または部品はスタンダードの所有となります。
本保証書は製品ご購入者に限り有効であり、第三者に譲渡されるものではありません。
スタンダード役員による署名付きの書面での同意がある場合をのぞき、本保証書への追加及び変更に対して、スタンダードはいかなる義務及び責任を負いません。
スタンダードと製品ご購入者の間で個別の同意がない限り、スタンダードは製品の取り付け、メンテナンス又はサービスの保証は行いません。スタンダードは、製品に装着又は接続して使用されるバーテックススタンダード、スタンダード及びモトローラ供給以外のアクセサリを使用した製品の運用に対し、いかなる責任も負いません。
通信システムで本製品が使用される場合、スタンダードは、そのシステム全体、サービスエリア、運用等をまとめて本保証規定で保証するものではありません。

II. 保証規定:

本保証書は、製品に対するスタンダードの責任と保証を定めたもので、一切の保証は保証期間内に限定されます。
スタンダードは当該製品の使用もしくは不使用に起因するご購入者の被る逸失利益、業務の中断、機会の損失やこれらに類する損害、または二次的損害等についての責任を負いません。

III. 以下は保証対象外となります:

A) 製品を正常かつ通常の使用方法でお取り扱いにならないことよって生じた故障及び損傷。

B) 誤った、又は乱暴なお取り扱い、事故、腐食、火災、水害、又は放置によって生じた故障及び傷。
C) 誤った、又は認可されていないテスト、使用、メンテナンス、サービス、修理、取り付け、変更、修正、又は調整によって生じた故障及び損傷。
D) 材料上又は製作上の欠陥に直接起因する以外の理由で生じたアンテナの破損及び損傷。
E) 説明書に記載の使用方法に反するお取り扱いを受けた製品。
F) 製品の性能に支障をきたす、又は正常な保証検査及び補償請求確認のための製品テストを妨げるような、認可されていない改造、加工、分解、純正でない部品又は電池の使用と修理（バーテックススタンダードおよびスタンダードが認可していない装置を使った製品に対する追加を含む）がなされた製品。
G) 製造番号が取り除かれた、又は製造番号が判読できない製品。
H) 利用者の修理が認められていない部品又はモジュールに付いたシールが外れている製品。
I) 修理品発送に対する送料。
J) 製品のソフトウェア／ファームウェアに不法又は無許可の変更が加えられている製品。
K) 製品の運用に影響を与えない、製品の表面に付いた傷、又は外観上の損傷。
L) 正常なご使用においての自然消耗、摩耗。
M) バーテックススタンダードでプログラムされていないメモリーモジュール。
N) 保証期間を過ぎた保証請求。

IV. 特許及びソフトウェア規定：
スタンダードは、バーテックススタンダード供給以外のソフトウェア、装置一式又はその一部を備えた製品又は部品の組み合わせに基づいた特許権の侵害請求に関して一切の責任を負いません。
また、スタンダードは製品に装着又は接続する、モトローラ供給以外の付属品又はソフトウェアの使用に対していかなる責任も負いません。上記は、製品又は部品に関し、特許権の侵害に関するスタンダードの全責任を提示したものです。法律により、版権で保護されたバーテックススタンダードのソフトウェアのコピー制作及びコピー流通の占有権など、バーテックススタンダードの特定の占有権は保護されています。バーテックススタンダードのソフトウェアは販売時に組み込まれている製品内でのみ使用されるものであり、当該製品の当該ソフトウェアはいかなる交換、コピー、流通、修正及び派生物の製造に使用されるものではありません。当該バーテックススタンダードソフトウェアの無制限の変更、修正、再生、流通、リバースエンジニアリング及び当該バーテックススタンダードソフトウェアが有する諸権利

の行使などは禁じられています。バーテックススタンダードの特許権又は著作権の元でない限り、いかなる許可も含意及び禁反言によって認められるものではありません。

V. 保証サービスの受け方:
保証サービスを受けるためには、ご購入を証明するもの(ご購入日と製品製造番号が明記されてあるもの)を添え、ご購入の販売店までご持参又は郵送してください。送料、保険はお客様のご負担になります。

VI. お問合せ先:
本保証規定に関してのご不明な点は下記までご連絡下さい。

株式会社スタンダード
電話 03-3719-2231　URL http://motorola-bizunit.jp/

はじめに

このたびはモトローラのデジタル簡易無線機「GDR3500」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書はGDR3500の標準的な操作方法について説明した取扱説明書です。ご使用前に必ずお読みください。

●ご注意

・通話は、無線局登録・開設届けに記載されている目的、通信の相手方および通信事項の範囲内で行ってください。ただし、人命の救助、洪水、火災などの災害時に、人命にかかわる通信を行うときはこのような制限はありません。
・他人の通話を聞いて、これを漏らしたり悪用することは電波法令で禁じられています。
・本機は電波法令で定められた技術基準に適合（合格）していますので、分解や改造は電波法令で禁じられています。

●本文中のマークの意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示は「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
⚠ **警告**	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠ **注意**	この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。
お願い	性能を十分発揮できるように、お守りいただきたい事項です。
⊘	行ってはならない禁止事項です（例 ⊘ 分解禁止）。
❗	必ず守っていただきたい注意事項です。

安全上のご注意

製品の安全性と電磁波による影響（携帯型無線機用）

本機を他の使用者に譲渡する場合には、使用者は、必ず本機の電磁波についての取り扱いが書かれた説明書（本書）を添えてください。

電磁波エネルギー被曝限度（電波が人体に与える影響において、人体が受けても差し支えない限度）について国際基準に準拠するには、以下の手順に従ってください。

・鼻や口唇から2.5cm以上離した状態でマイク（およびアンテナを含む携帯型無線機本体）が顔の前に来るようにして無線機を垂直にして持ちます。アンテナは、目から離れた状態にしておく必要があります。

・50%の定格使用時間率を超して交信しない。
送信を使用時間率で50%以下にすることが重要です。10秒送信したら、10秒以上受信するといったような、通話のしかたで、送信は手短に行うよう心がけてください。

・純正のアンテナ、電池パックおよびアクセサリをご使用ください。

医療機器について
病院、および医療機関では外部電磁波エネルギーの影響を受けやすい機器を使用していることがあります。
電源を切るよう指示されている場所では無線機の電源を切ってください。

ペースメーカー
米国先進医療技術工業会（Advanced Medical Technology Association）（AdvaMed）は、携帯型無線機とペースメーカーの間の距離を少なくとも15cm（6インチ）は維持することを推奨しています。
ペースメーカーを着用されている方は本機のご使用を控えてください。
やむを得ず携帯型無線機を利用する場合は必ず、無線機を着用のペースメーカーから少なくとも15cm（6インチ）は離しておいてください。

・何らかの理由により、妨害が生じていることが疑われる場合には、すぐに無線機のスイッチをオフにしてください。

危 険

安全運転について

・運転中に携帯型無線機を使用しないでください。

道路交通法、第７１条第５号の５の規定により運転中に無線機を手に持って使用することは禁止されています。

事故の原因になりますので、まず安全な路肩に寄せ、停車してから、通話をおこなってください。

または、ハンズフリー用純正アクセサリのご使用を推奨しています。

危 険

エアーバッグのある部分、またはエアーバッグが膨らむ場所に携帯型無線機を置かないでください。

エアーバッグは強い力で膨らみます。無線機がエアーバッグの膨らむ場所に置かれている場合、エアーバッグが膨らみますと無線機が強い力で押され、車の搭乗者がけがをする原因となります。

危 険

爆発の恐れのある場所に立ち入る場合、立ち入る前に携帯型無線機のスイッチをオフにしてください。

（爆発のおそれのある場所とは、危険なガス、蒸気、または埃がある可能性があり、危険であると分類され、とりわけ爆発のおそれのある場所のことを言います。）

このような場所では、電池パックを取り外したり、装着したり、あるいは充電したりしないでください。

爆発の恐れのある場所で火花が飛ぶと、爆発や火災の原因となり、けがまたは死亡する危険があります。

危 険

発破区域および雷管の近くでは携帯型無線機の電源を切ってください。

爆発に影響を与えないよう、「発破危険」のように表示されている場所では、無線機の電源を切ってください。

危 険

アンテナが壊れている携帯型無線機は使用しないでください。

壊れているアンテナの導体が皮膚に触れ、送信した場合、軽いやけどをすることがあります。

電池パック
電池パックは、金属製のものとともにポケットなどに入れたり金属ケースに入れないでください。
端子が他の金属製のものによりショートし、火傷、発火の危険があります。
・危険環境下で電池パックを交換したり、充電しないでください。電池パックの脱着時に端子から火花が飛び、爆発や火災の原因になることがあります。

不正な修理をおこなったり、ラベルの貼り替えを行いますと、その機器の認定が無効となることがあります。

当社製機器は、取扱説明書のリストに掲載されるアクセサリが認定機関によって認定されています。
アクセサリとの組み合わせは、厳密に遵守する必要があります。

●その他の安全上の注意

その他使用にあたって
ゴルフ場などの野外で携帯型無線機を使用中に雷鳴が聞こえた時は、落雷のおそれがありますので無線機を使用しないでください。

その他電子機器との混信
正しく設置されていない、また、十分にシールドされていない自動車の電子操作系統や娯楽用機器など、電磁波によって影響を受ける場合があります。その場合、それぞれの販売メーカーまたは販売店に、それらの設備が外部からの電磁波から適切にシールドされているかどうかご確認ください。
また、自動車などに別途追加した設備についてもご確認ください。

異常に温度が高くなるところや、直接雨や水のかかる場所に放置しないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

直射日光のあたる場所（自動車内）や高温になる所、極端な低温環境に無線機本体を置かないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

強い衝撃をあたえたり、投げつけたりしないでください。

注意

アンテナが破損することがありますので、無線機を持つときは、アンテナをつかまないでください。

注意

接触不良の原因となりますので、オーディオアクセサリを使用しないときには、ダストカバーを付けてご使用ください。

●電池パックをお使いいただく前に

電池パックはお引渡し時には、十分充電されていません。ご購入後は、必ず充電してからお使いください。

警告

充電の際には専用の充電器を使用してください。

注意

高温になる場所(火のそば、ストーブのそば、炎天下など)や引火性ガスの発生するような場所での充電・放電はしないでください。

注意

火の中に投入したり、過熱しないでください。

注意

釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

危険

直接ハンダ付けしないでください。

警告

分解や改造はしないでください。

注意

夏期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では電池の容量が低下し利用できる時間が短くなります。

注意

水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたまま放置しないでください。
電池パックを使用しない場合には、無線機本体から外して湿気の少ない場所で保管してください。

●取扱い上のお願い

注 意

電源端子・充電端子をときどき乾いた綿棒などで、清掃してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。

注 意

無線機本体の清掃の際は、固めの豚毛のブラシに薄めた洗剤溶液（台所用中性洗剤を水に混ぜて作ったもの）を少量つけて軽くこすってください。
清掃後は、糸くずのつかない布できれいに拭き取ってください。
また、洗剤の溶液がコネクタ付近、または溝や割れ目に残らないように注意してください。

注 意

無線機を直接、洗剤の溶液の中に入れるようなことは絶対にしないでください。

注 意

溶剤やアルコールなどで無線機を清掃すると、無線機を傷つけたり破損したりすることがあります。

●防水性能について

GDR3500は、電池パックを装着した状態でIP67相当の防水性能を有しております。
防浸型 IP67（旧 JIS 保護等級 7 相当）

常温の水道水、かつ水深 1 ｍの静水にGDR3500を静かに沈め、30分放置後に取出した状態で無線機として機能すること。

※ 耐水圧設計ではありませんので、高い水圧がかかる場所でのご使用や、水中に長時間沈めることはおやめください。

注 意

水滴が付着した場合は放置せず水滴を拭き取ってください。

注 意

水中で使用しないでください。

注 意

雨の中でご利用の際は、雨量にご注意ください。

注意

雨の中や水滴が付いたままでの電池パックの取り付け/取り外しや、ダストカバーの着脱は行わないでください。

注意

防水性能の記載がある付属品・アクセサリを除いては、防水性能を有しておりません。

注意

濡れている状態で充電しないでください。

注意

熱湯、温風(ドライヤーなど)をGDR3500にあてないでください。

注意

極端な温度の変化でのご利用は避けてください。結露のため内部が腐食し故障の原因になりますのでご注意ください。

注意

マイク、スピーカー部に尖ったものを差し込まないでください。

注意

ご使用になる環境はそれぞれ異なりますので、全ての状態での防水性能を保証するものではありません。

注意

製品本体の防水性能を維持するためには、異常の有無に関わらず保証期間経過後、1年に一度のメンテナンスをお勧めします(有償にて承ります)。

注意

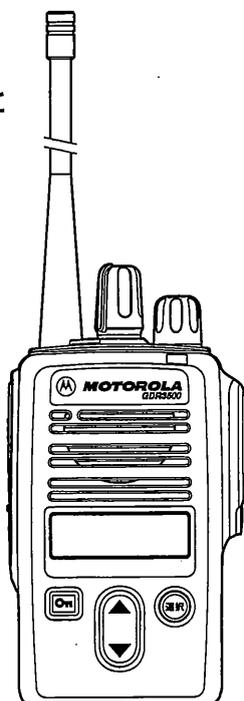
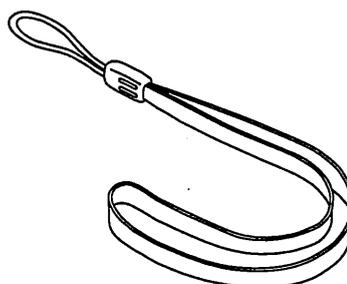
過失等、故障内容によっては、保証期間内においても有償修理の対象となる場合があります。

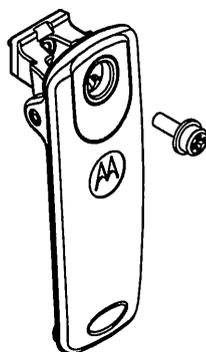
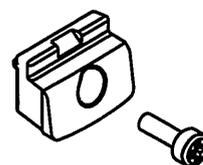
目 次

製品および付属品の確認

はじめに同梱品を確認してください。

●無線機本体

※ アンテナは別梱包品となります。

●ハンドストラップ

●ダストカバー

●ベルトクリップ

●ダミーボード

●取扱説明書（本書）

正しくご使用いただくために

◎ 本機にマイクロホンなどを接続する際は、必ず当社純正アクセサリを使用してください。当社純正品以外のアクセサリを使用すると、故障や破損の原因になります。
当社純正品以外のアクセサリの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。

◎ リチウムイオン電池パック“MLB-001”を充電する際は、必ず当社指定の充電器を使用してください。当社指定以外の充電器を使用すると、火災や故障の原因になります。

◎ 外部マイクロホンを取り付けた際は、コードを強く引き伸ばしたままにしないでください。
コードの断線などにより、故障の原因になります。

◎ 直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。

◎ 電波法により、無線機やマイクを分解・改造・指定以外の装置を接続することは禁じられています。

◎ 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。

◎ 通話する際は、マイクから約 5 センチ離して普通の声で話してください。
マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声が割れたり、歪むことがあります。

◎ 運用が終わりましたら、電池パックが消耗しないように、無線機の電源を切ってください。

◎ 内部の点検・修理は、お買い上げいただきました販売店にご依頼ください。

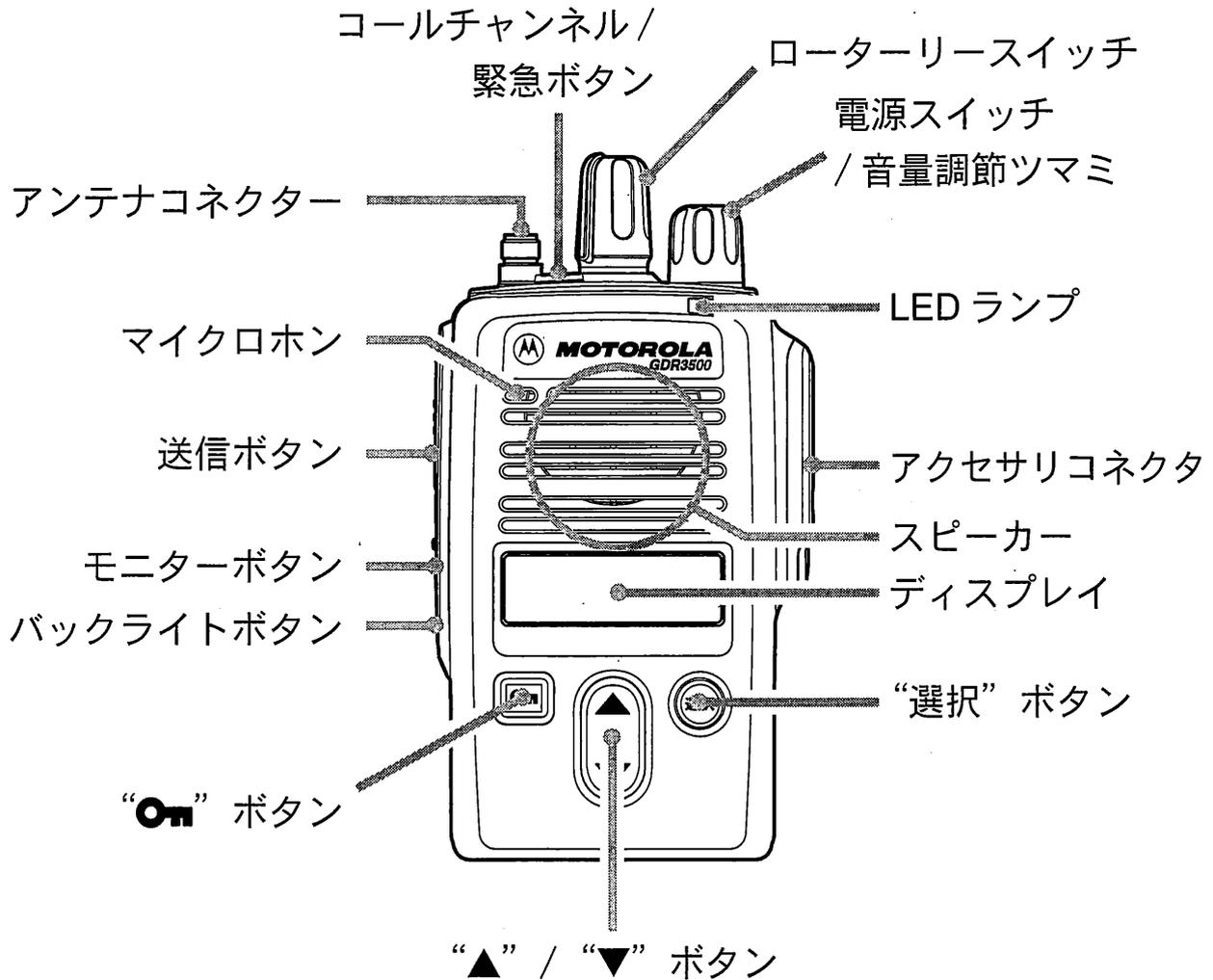
通信方式に関して

◎ 本機は、デジタル簡易無線機(登録局)として認証を取得しています。無線局の登録および開設申請をすることでご利用いただけます。

◎ 登録申請および開設申請につきましてはご購入いただきました販売店、または弊社営業所あてにお問い合わせください。

◎ 本機は、ARIB 規格に準拠していますので、他のデジタル簡易無線機(種別コード「3R」)との互換性を確保しています。
※ ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。

各部の名前と機能

● GDR3500

●アンテナコネクター

アンテナを接続します。

●コールチャンネル／緊急ボタン

チャンネルが15チャンネル(コールチャンネル)に切り替わります。再度押すと、元のチャンネルに戻ります。緊急時には、約3秒間押し続けると"緊急アラーム機能※"が動作します。

緊急アラーム機能を止めるときは、電源を切ってください。

※緊急アラーム機能の動作は、設定により異なります(51ページ参照)。

●ロータリースイッチ

チャンネル、呼び出す相手先の変更や、拡張機能の項目選択時にまわします。

●電源スイッチ / 音量調節ツマミ

電源の ON/OFF と音量の調節をします。

●送信ボタン

押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。

●モニターボタン

設定したユーザーコードに関係なく、そのチャンネルでの秘話通信でないデジタル音声信号をモニターすることができます。

※音声圧縮方式、通信モードが一致している必要があります。

●バックライトボタン

一度押すと約 5 秒間ディスプレイの照明が点灯します。

●スピーカー

ここから相手の音声や操作音が聞こえます。

● LED ランプ（33 ページ参照）

受信中は通信方式により“緑色”“水色”“青または白色”の点滅、送信中は“赤色”または“青色”に点灯します。バッテリーが消耗時は、“赤色”で点滅します。

●マイクロホン

ここに向かって話します。

●“選択”ボタン

拡張機能を表示していて、項目の設定変更が必要な場合に操作します。

●“O‑π”ボタン

2 秒間押し続けると、誤って各種ボタンに触れても設定が変わらないようにロックすることができます。

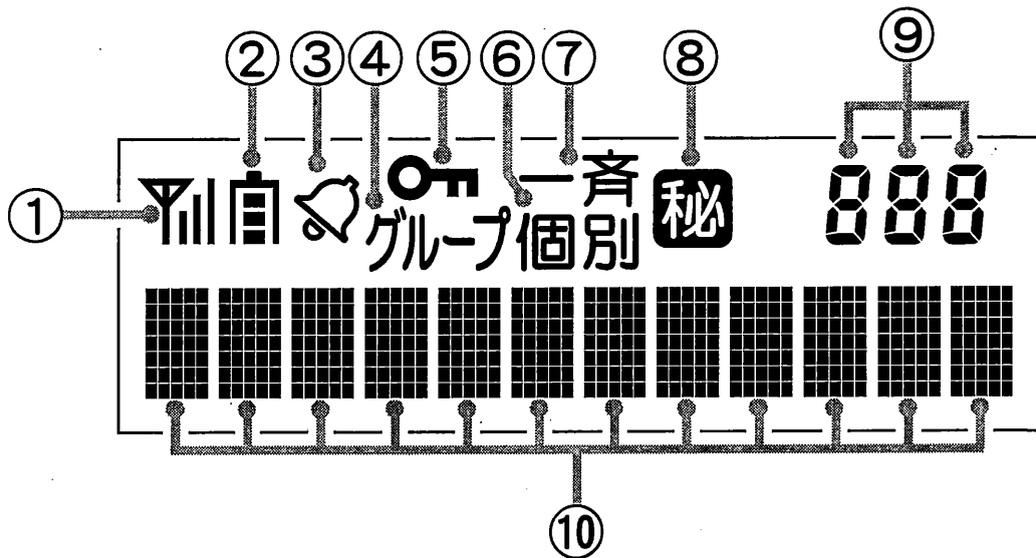
●“▲”/“▼”ボタン

個別通信時は、呼び出す相手局の選択をおこないます。

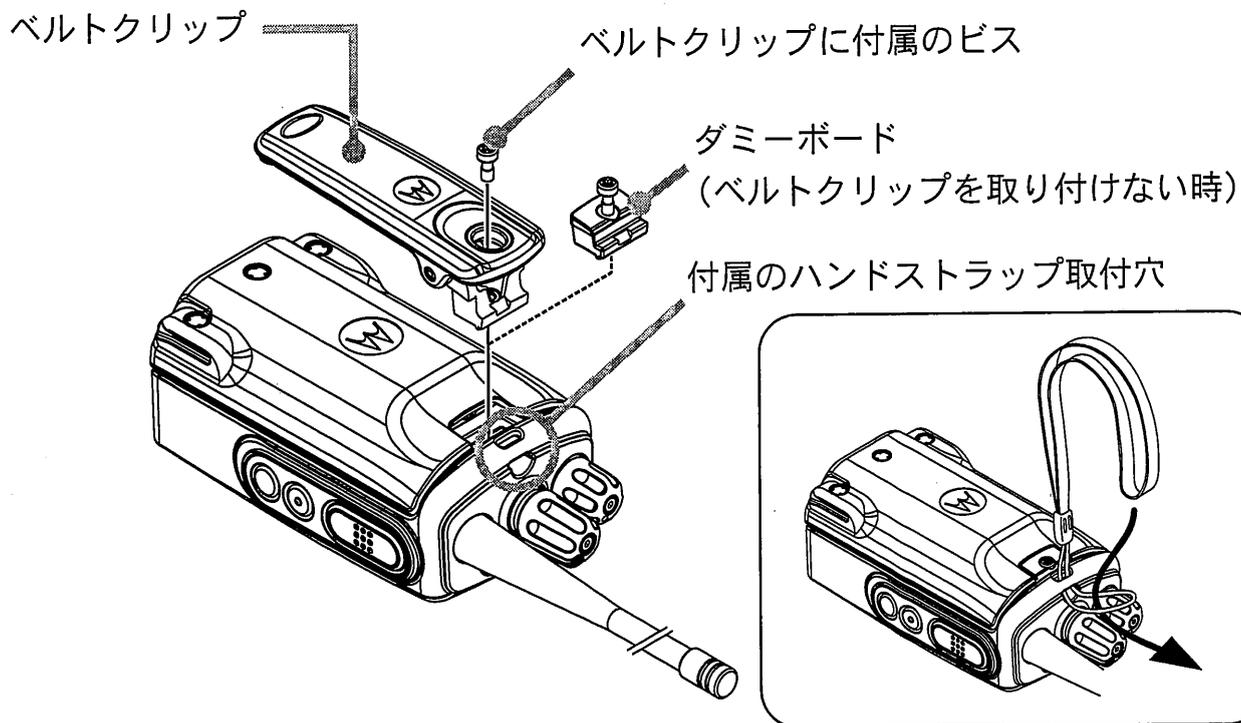
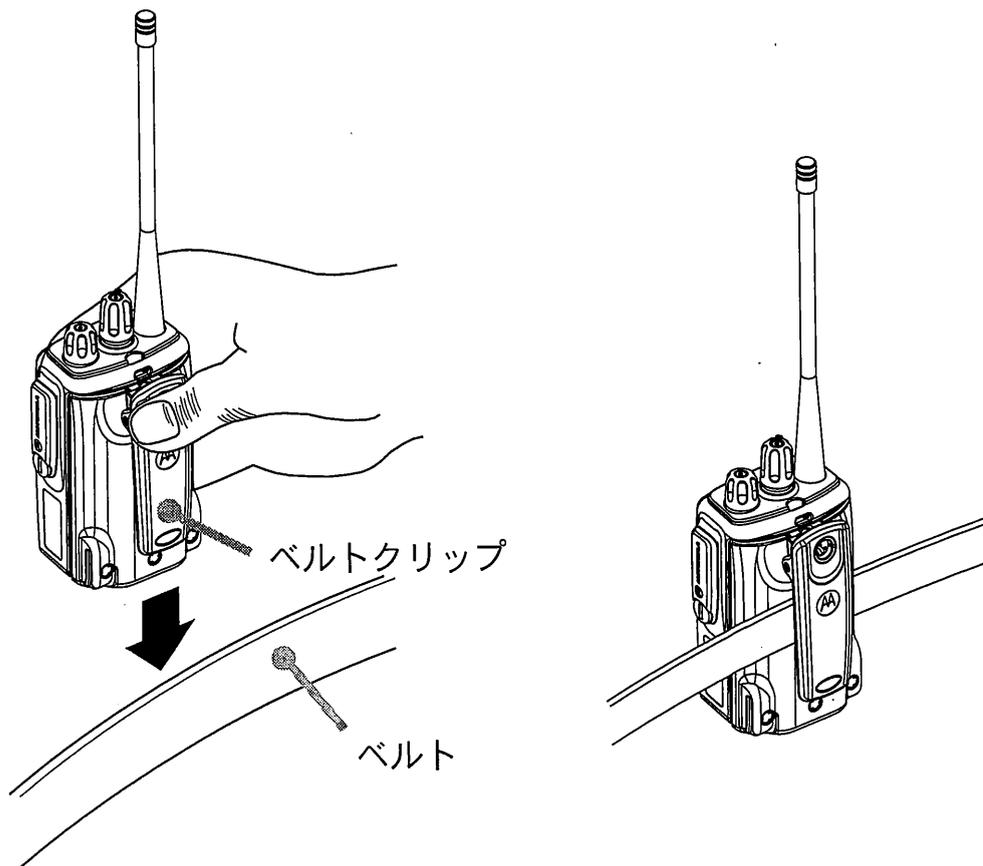
●アクセサリコネクタ

スピーカーマイクなどのアクセサリを接続します。

●ディスプレイ

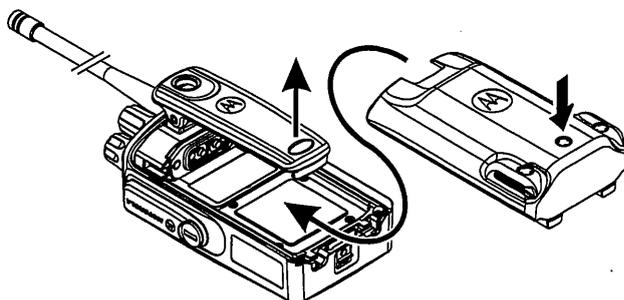
各種状態や情報を表示します。

① 電界強度表示/送信出力表示	受信時：	受信している電波の強さに応じて4段階で表示します。
	送信時：	5W 出力時は“Yıll”、1W 出力時は“Yı”が点灯します。
② 電池残量表示		電池残量の目安を表示します。
③ 個別通信表示		個別通信時に点灯します。
④ グループ表示		個別通信運用時のグループコール時に点灯します。
⑤ キーロック表示		キーロック機能が動作しているときに点灯します。
⑥ 個別表示		個別通信運用時の個別コール時に点灯します。
⑦ 一斉表示		個別通信運用時の一斉コール時に点灯します。
⑧ 秘話表示		秘話通信を設定しているときに点灯します。
⑨ チャンネル番号/機能番号表示		チャンネル番号やユーザーコード、各種機能設定時には、機能番号を表示します。
⑩ 文字表示部		チャンネル番号、呼び出し先、機能などをアルファベット、数字、カタカナで表示します(最大12桁)。

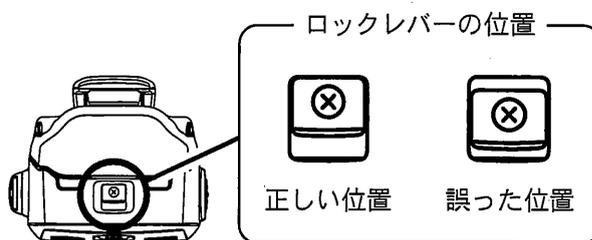
ベルトクリップの使いかた

ダミーボードを外し、ベルトクリップに付属しているビスで、ベルトクリップを取り付けます。

ベルトクリップの先端を指で押し、ベルトへ確実に取り付けてください。

電池パックの取り付け／取り外し

●リチウムイオン電池パックを取り付ける

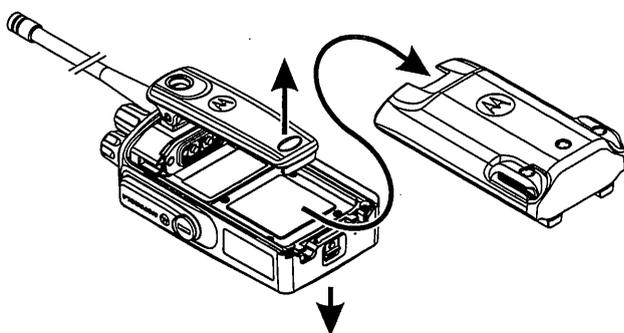
1 ベルトクリップを取り付けている場合は矢印の方向に上げます。

2 リチウムイオン電池パックの背面を押しながらスライドし、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

注意
- 「カチッ」と音がするまで、電池パックの背面を押しながらスライドし、確実に取り付けてください。
- 電池パックを取り付けた後、ロックレバーが正しい位置にあるか確認してください。

確実に取り付けていないと落下事故や故障の原因になります。

●リチウムイオン電池パックを取り外す

1 ベルトクリップを取り付けている場合は矢印の方向に上げます。

2 ロックレバーを矢印の方向に下げます。

3 リチウムイオン電池パックを抜き取ります。

注意 ロックを外す時は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。

電池パック

●電池の消耗について

電池が消耗すると、ディスプレイの電池マークが下記のように変化します。
電池マークが点滅し、LEDランプが赤色に点滅した時は、直ちに充電(または電池の交換)を行ってください。

十分使えます
まだ使えます
残りわずかです
空になりました
すぐに充電してください

●電池持続時間

電池持続時間は、「送信5：受信5：待ち受け90」の測定条件になります。
周囲の温度により使用できる時間が異なることがあります(特に寒冷地では使用時間が短くなります)。

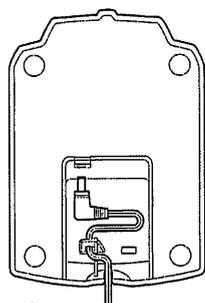
リチウムイオン電池(MLB-001)	
送信5Wで運用時	送信1Wで運用時
約12時間	約17時間

●リチウムイオン電池パックの充電方法

急速充電器“MAC-3500”を接続して、リチウムイオン電池パックを充電します（下図参照）。充電は、約4時間で完了します。

補足 リチウムイオン電池パックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。

充電器のランプが赤色に点灯し、充電が完了に近づくと赤色と緑色が交互に点滅します。充電が完了するとランプは緑色に点灯します。

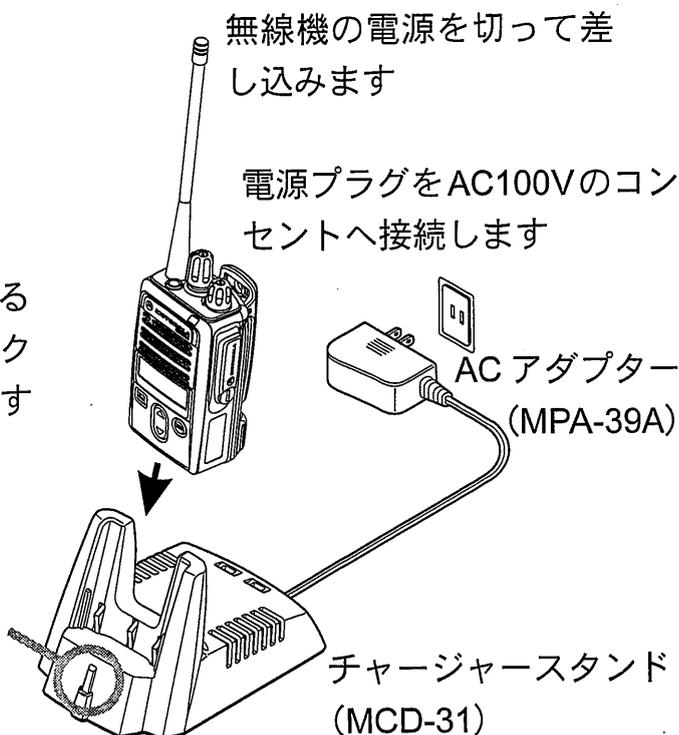
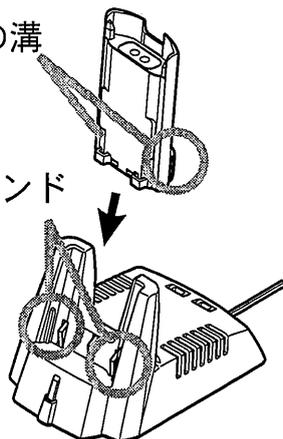
注意 充電終了後、AC アダプターをコンセントから外してください。
長時間充電したままにしておくと、リチウムイオン電池パックを劣化させることがあります。

チャージャースタンドの底面にあるジャックに、AC アダプターのコネクターを差し込み、コードを配線します

無線機の電源を切って差し込みます

電源プラグをAC100Vのコンセントへ接続します

AC アダプター（MPA-39A）

チャージャースタンド（MCD-31）

ランプ
赤色点灯：充電中
赤色、緑色交互に点滅：充電完了間近
緑色点灯：充電完了

リチウムイオン電池パックを単体で充電するときは、リチウムイオン電池パックの溝を、チャージャースタンド内側のレールに合わせて差し込みます。

デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線は電波法により、登録局と免許局に分かれており、周波数帯はそれぞれ351MHz及び467MHz帯が割り当てられています。本機は「登録局」、ARIB規格での無線設備の種別コード「3R」として開発され、同じ登録局の(上空利用「3S」)とは異なりますので、上空用にはご利用いただけません。

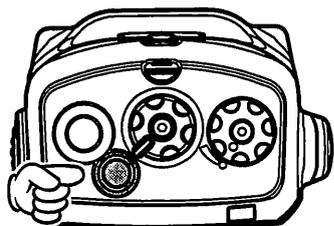
●チャンネル構成とコールチャンネル

本機のチャンネル構成(ARIB無線設備の種別コード「3R」)

"-CH01-"(351.2000MHz)から6.25kHz間隔で、"-CH30-"(351.38125MHz)までの30チャンネルが利用できます。
ただし、"-CH15-"(351.28750MHz)は「コールチャンネル」に設定されています。
コールチャンネルでは、ユーザーコードは自動的に"000"に設定され、秘話通信は自動的に解除されますので、ARIB規格で定めている「呼出用チャンネル」として、ご利用いただけます。
なおコールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。

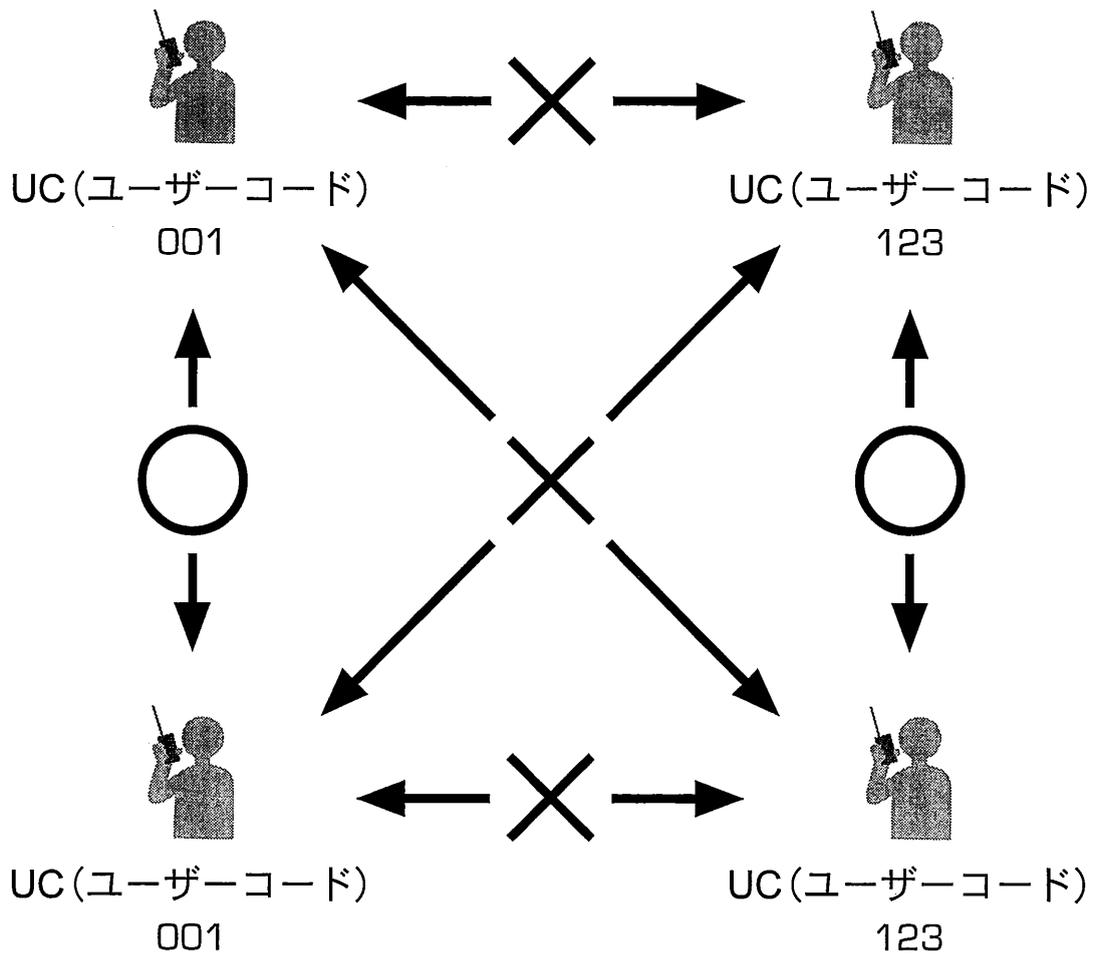
- ● ユーザーコードの設定および、秘話通信のご利用は、"-CH15-"を除く、他のチャンネルで有効となります。
- ● 個別通信時はコールチャンネルが使用できません。チャンネルを変更すると、"-CH14-"から"-CH16-"へとコールチャンネルがスキップされます。

本体上部に"コールチャンネルボタン"を装備しておりますので、ワンタッチでコールチャンネルに切り替えることができます。

※個別通信では、"コールチャンネル"を使用しないため、この機能は動作しません。

ピポッ♪ ➠ コールチャンネルに設定
ポピッ♪ ➠ 元のチャンネルに戻る

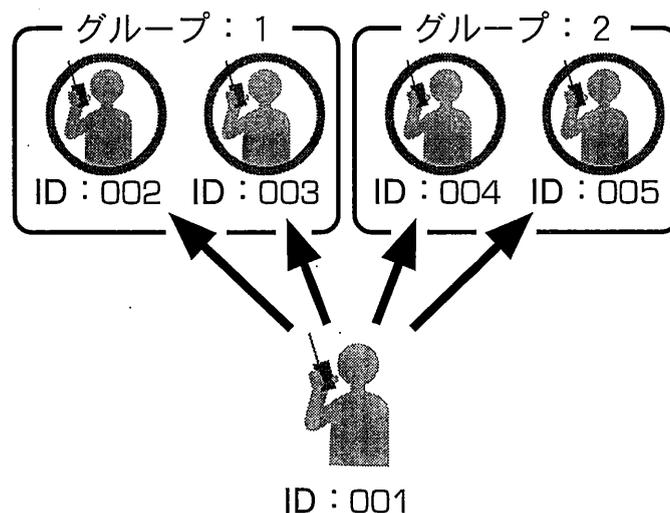
通信について

●ユーザーコード(UC)通信(26ページ)

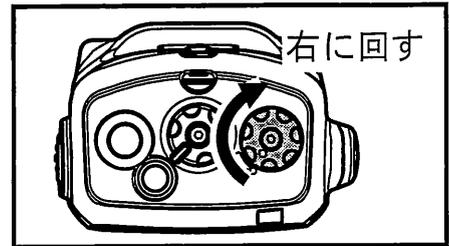
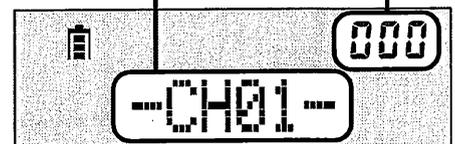
全員が同じチャンネル番号にあわせていても、同じUC(ユーザーコード)を設定している者同士だけが、通話することができる通信方式です。
本機は、あらかじめUC(ユーザーコード)が“000”に設定されていますが、拡張機能の「C02 UC」(36ページ参照)で、変更(000～511まで)することができます。

●個別通信(28ページ)

全員が同じチャンネル番号とUC(ユーザーコード)に合わせていても、特定の相手だけを呼び出したり(全員を一斉に呼び出すことも可能)、特定のグループに属する全ての局を呼び出して通話することができる通信方式です。
この通信方式を利用するには、各無線機に個別のID番号を設定する必要があります。個別IDの設定方法は、拡張機能の「C04 ジキョクID」(38ページ参照)をご覧ください。

特定の相手だけを呼び出す

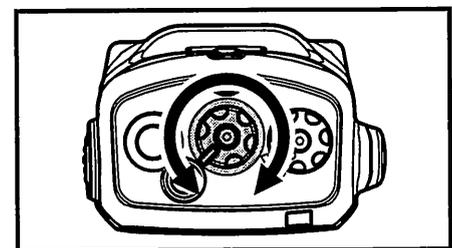
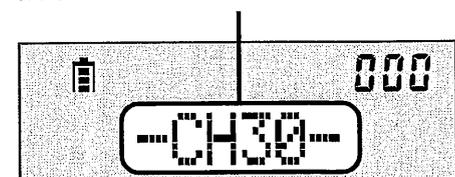
全員を一斉に呼び出す

特定のグループに属する全員を呼び出す

ユーザーコード(UC)通信のしかた

1 電源を入れます。
電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。

補足 ディスプレイに“GDR3500”が約1秒間表示され「ピピ」と電子音が鳴り、現在のチャンネルとユーザーコードがディスプレイに表示されます。

2 音量を調節します。
音量調節ツマミを12時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。

3 ユーザーコードを確認します
ディスプレイ右上に表示されているユーザーコードが、相手局と同じコードになっているかを確認します。

注意 コードが異なる場合は、交信することができません。必ず相手局と同じユーザーコードに設定してください(36ページ参照)。

4 チャンネルをあわせます
ロータリースイッチをまわして、通話したい相手と同じチャンネルにあわせます。

補足
- チャンネルを▲/▼ボタンで選択するように設定してある場合(49ページ参照)は、▲/▼ボタンでチャンネルをあわせてください。
- ユーザーコード(UC)通信で使用できるチャンネルは、“-CH01-”～“-CH30-”です。なお、“Call-CH15-”は呼出し用チャンネルのため、ユーザーコードおよび秘話(58ページ参照)は自動的に解除されます。

5 送信(通話)します。
送信ボタンを押しながら、マイクロホンに向かって話します。

他の通信への混信を防ぐため、送信開始直前には、キャリアセンス機能(32ページ参照)が自動的に動作します。

補足

・マイクロホンと口元の間隔は、5cm 位が適当で、普通の声で話します。

・他の通信を受信中(LED ランプが緑色に点滅中)、に送信ボタンを押すと、キャリアセンス機能(32ページ参照)により、送信禁止アラームが鳴り“-Wait-”が表示されて送信できないことがあります。この場合、LED ランプの緑色の点滅が消えてから、再び送信ボタンを押してください。

・送信ボタンを押している間に受信している電波がなくなると、チャンネルの空きを自動的に判断し、送信状態になります。

・送信中は、LEDランプが赤色に点灯し、ディスプレイに“Yıl”が点灯します(送信出力が1W に設定されている場合は“Yı”が点灯します)。

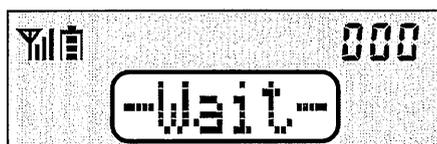
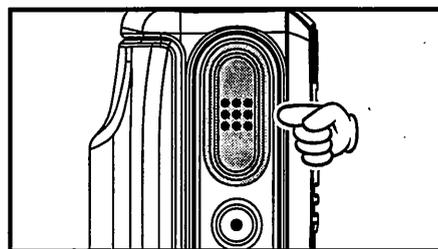
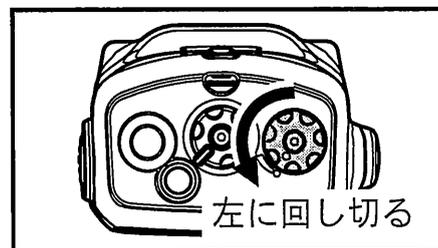
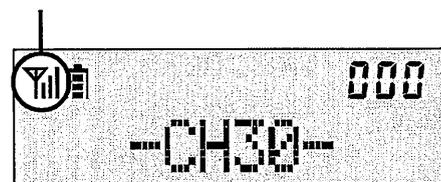
“Yıl”が点灯

6 相手の音声を受信します。
送信ボタンを離すと、相手の話を聞くことができます。

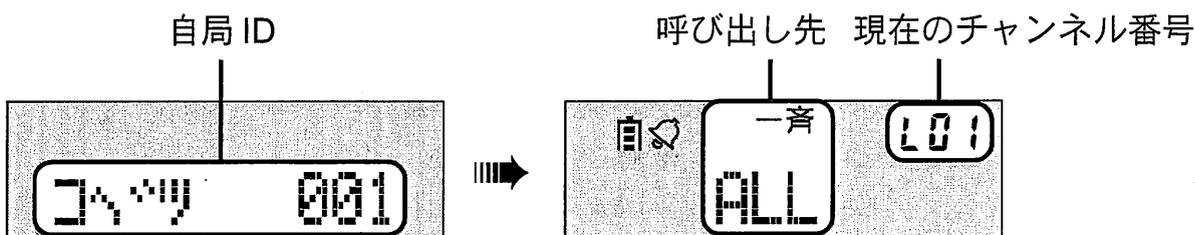
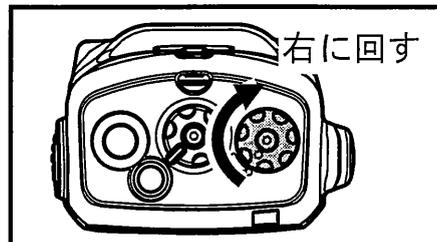
補足

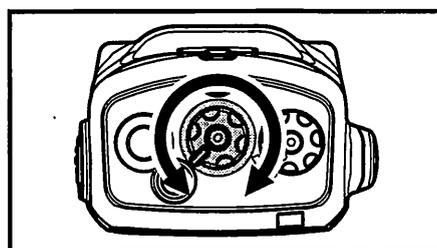
信号を受信すると、LED ランプが緑色に点滅し、電波の強さに応じて、ディスプレイの“Yıl”が点灯します(最大3本)。

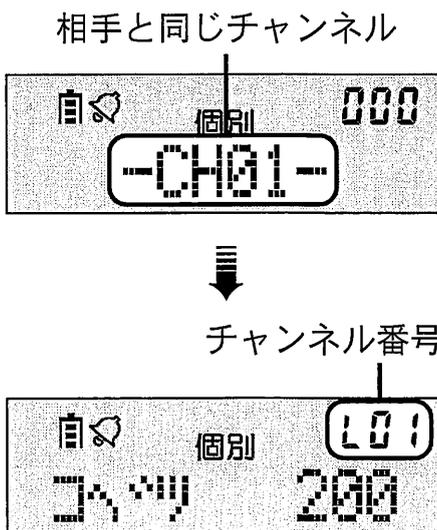
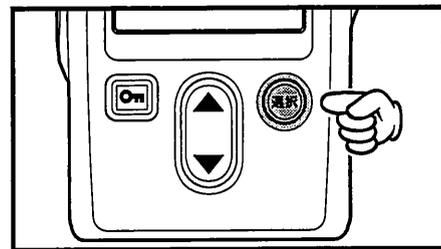
信号を受信すると点灯

7 電源を切ります
電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

個別通信のしかた

●呼び出し方法

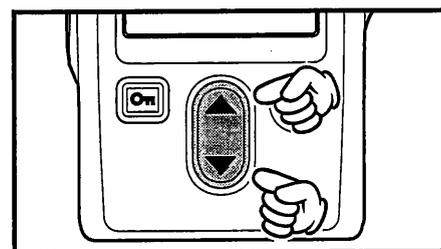
1 電源を入れます。
電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。ディスプレイに“自局 ID”が約 1 秒間表示され「ピピ」と電子音が鳴り、呼び出し先が表示されます。

2 音量を調節します。
音量調節ツマミを 12 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。

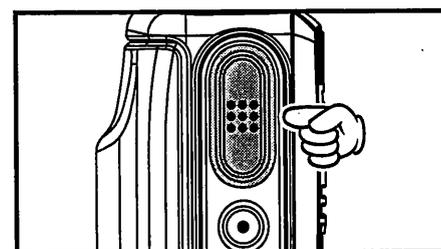
3 チャンネルをあわせます
ロータリースイッチをまわして、通話したい相手と同じチャンネルにあわせます。

補足
・ロータリースイッチが、呼び出し先を選択する動作になっている場合は、30 ページの“チャンネルの変更方法について”に記載してある操作で、チャンネルをあわせてください。

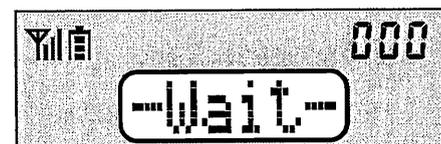
注意
・個別通信では、コールチャンネル“Call-CH15-”を選択することはできません(23 ページ参照)。
・ユーザーコードが異なる場合は、交信することができません。必ず相手局と同じユーザーコードに設定してください(36 ページ参照)。

4 呼び出し方法を選びます。
"選択" ボタンを何度か押して、呼び出し方法を選びます。
※"選択" ボタンを押して "グループ" と "個別" を表示させたときは、登録されたIDの一番若い値が表示されます。

特定の相手局を呼び出したいとき

特定のグループに属する、全ての局を一斉に呼び出したいとき

同じチャンネルにあわせている、全ての局を呼び出したいとき

5 呼び出し先を選びます。
特定の相手やグループを呼び出したい時は、▲/▼ボタンで、"個別ID" または "グループコード" を選択します。

補足 ▼/▲ボタンが、運用チャンネルを選択する動作になっている場合(49 ページ参照)は、ロータリースイッチで呼び出し先を選んでください。

6 送信(通話)します。
送信ボタンを押しながら、マイクに向かって話します。

注意 他の通信への混信を防ぐため、送信開始直前には、キャリアセンス機能(32 ページ参照)が自動的に動作します。

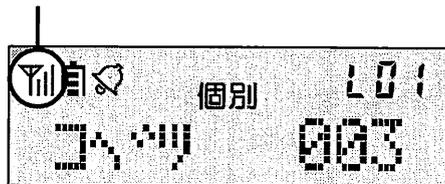
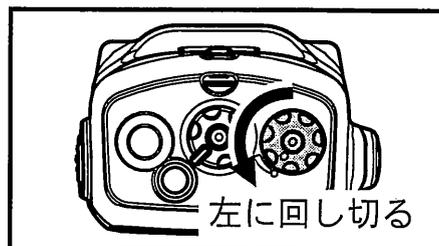
補足
- 他の通信を受信中(LED ランプが緑色に点滅中)、に送信ボタンを押すと、キャリアセンス機能(32 ページ参照)により、送信禁止アラームが鳴り "-Wait-" が表示されて送信できないことがあります。この場合、LED ランプの緑色の点滅が消えてから、再び送信ボタンを押してください。
- 送信ボタンを押している間に受信している電波がなくなると、チャンネルの空きを自動的に判断し、送信状態になります。

・マイクロホンと口元の間隔は、5cm 位が適当で、普通の声で話します。
・送信中は、LEDランプが赤色に点灯し、ディスプレイに“Yil”が点灯します(送信出力が 1W に設定されている場合は“Yi”が点灯します)。

“Yil”が点灯

個別 L01
ｺﾍﾞﾂ 003

7 相手の音声を受信します。
送信ボタンを離すと、相手の話を聞くことができます。

補足
・信号を受信すると、LED ランプが水色に点滅し、電波の強さに応じて、ディスプレイの“Yil”が点灯します(最大 3 本)。
・相手からの応答がなく、応答待ち時間(通話タイマー：工場出荷時は 5 秒) が経過すると、自動的に待機状態に戻ります。
・応答するタイミングは、応答待ち時間(通話タイマー：工場出荷時は 5 秒) 以内に行ってください。
・個別通信では、お互いに通話が終わった時から、応答待ち時間 (通話タイマー) がスタートします。

信号を受信すると点灯

8 電源を切ります
電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

チャンネルの変更方法について

個別通信を行う際、ロータリースイッチが“呼び出し先を選択する動作になっている”(49ページ参照) 場合は、下記の操作でチャンネルをあわせてください。

① ▲または▼ボタンを 3 秒間押し続けると、ディスプレイに現在のチャンネルが表示されます。
　・チャンネル表示は、約 3 秒経過すると元の表示に戻りますので、チャンネルを変更する場合は、3 秒以内に②の操作をおこなってください。
② ▲または▼ボタンで、希望のチャンネルにあわせます。
③ そのまま約 3 秒経過すると、新しいチャンネルに設定されて、操作をおこなう前の状態に戻ります。

●呼び出しを受けたとき

個別通信方式で呼び出しを受けると、ディスプレイの表示、電子音、LED ランプにより、呼び出しがあったことを知らせます。
これらの動作は、呼び出された方式(個別呼び出し、グループ呼び出し、一斉呼び出し)により異なりますので、下記を参照してください。
相手の送信が終わると、LED ランプの点滅が点灯に変わりますので、LED ランプが点灯している間(応答待ち時間:工場出荷時は5秒)に、送信ボタンを押しながら、マイクに向かって応答してください。

補足 自動的に呼び出された方式(個別呼び出し、グループ呼び出し、一斉呼び出し)に切り替わり、応答することができます。
なお、呼び出しを受けても応答しない場合、応答待ち時間が経過すると(LED ランプが消灯します)、自動的に待機状態に戻ります。

個別呼び出しを受けたとき

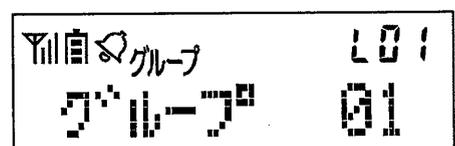
ディスプレイに、呼び出してきた相手局の ID が表示され、スピーカーから電子音が一回鳴り、LED ランプが水色に点滅します。

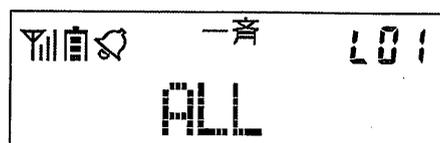
呼び出してきた局の ID

- 相手の ID の点滅表示と LED の点灯は、“選択”“▲/▼”ボタンまたは、モニターボタンを押すまで継続します。
- 個別呼出しで呼ばれたときに、すぐに応答できなかった場合に応答時間待ち時間が経過すると、不在着信機能により呼び出してきた相手局の ID が点滅表示され、LED が点灯したままになります。応答する場合は、そのまま送信ボタンを押すと個別呼出しが行われます。
  不在着信は最新 1 件が表示されます。

グループ呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出されたグループの ID が表示され、LED ランプが水色に点滅します。

補足 呼び出しを受けた際に、電子音を鳴らすことができます(40 ページ参照)。

一斉呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、一斉呼び出しを示す“ALL”が表示され、LEDランプが水色に点滅します。

補足 グループ呼び出しを受けた時に電子音が鳴るように変更した場合、一斉呼び出しを受けた際も、同様に電子音が鳴ります(40ページ参照)。

通話に関する留意事項

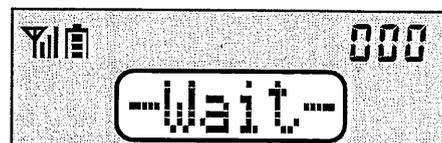
キャリアセンス機能

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。
本機は、デジタル簡易無線機登録局として、キャリアセンス機能を搭載しており、電波法およびARIB規格により、以下の2つの方式から選択することができます※。

方式1： 送信(送信ボタンを押す動作)のたびに、キャリアセンスを行う方式。
方式2： 一度キャリアセンスを行って送信した場合、その後5分間はキャリアセンスを省略することができます。但しこの5分間の中で、3秒間の応答待ち時間中に応答がない場合には、キャリアセンスの省略はキャンセルされます。

※個別通信時は、自動的にキャリアセンス方式1が選択されます。

補足 本機は、工場出荷時には“方式2”に設定されています。“方式1”でご使用になる場合には、お買い上げいただきました販売店またはお近くの営業所/サービスセンター宛にお問い合わせください。

キャリアセンス機能で送信が禁止された場合は、ディスプレイに“-Wait-”を表示すると同時に「ポポ・・・ポポ・・・」と電子音が鳴り、送信できないことを知らせます。

本機のキャリアセンスの動作と連続送信時間(電波法および、ARIB規格準拠)

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">キャリアセンス方式1
(毎回監視モード)</th><th colspan="2">キャリアセンス方式2
(通話中省略モード)</th></tr>
<tr><th>時間</th><th>電子音</th><th>時間</th><th>電子音</th></tr>
<tr><td>連続送信制限時間
(送信の連続)</td><td>5分未満
(約4分50秒で予告音)</td><td>ピピピ</td><td rowspan="2">約4分30秒
(約4分10秒で予告音)</td><td rowspan="2">ピピピ</td></tr>
<tr><td>通話時間制限
(送受信の合計時間)</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>通話時間リセット
(送受信共無し)</td><td>—</td><td>—</td><td>3秒後
(水色LED点灯)</td><td>ポ</td></tr>
</table>

秘話通信機能（拡張機能“C10”参照）

設定した32,767通りの秘話鍵が一致する無線機同士のみ交信することができる機能です。
工場出荷時は、秘話コード$01～$20に、あらかじめ秘話鍵として数値を設定しておりますが、ご利用に際し、通話セキュリティーを十分に確保するためには、お買い上げいただきました販売店とご相談の上、32,767通りの秘話鍵から任意に選択した数値を$01～$20に再設定することをお勧めいたします。

着信ベル（拡張機能“C03”参照）

着信を知らせる電子音「プルル」を設定している場合、相手局の信号を受信するたびに電子音が鳴るのを避けるため、応答待ち時間を設けています。このため、着信ベルが鳴った後、約3秒（キャリアセンス方式1の場合は、約5秒）が経過すると、「ポ」という電子音と同時に応答待ち時間が終了し、その後同じユーザーコードの信号を受信すると、新たに着信ベルが鳴ります。

LEDランプによる通話状態の表示

本機は、動作状態を視覚的にわかりやすくお使いいただくために、三原色のLEDを使用し、動作状態を以下のように示します。

LEDの色・状態	通信（動作）状況
緑色点滅	UC通信受信時、他局通信時
緑色点灯	モニター動作時
赤色点滅	電池パック消耗時
赤緑点滅	キャリアセンス動作時に送信ボタンを押したままの時
赤色点灯	UC通信送信時、個別通信送信時
青色点滅	秘話UC通信受信時、秘話個別通信受信時
青色点灯	秘話UC通信送信時、秘話個別通信送信時
水色点滅	個別通信受信時
水色点灯	個別通信および秘話個別通信での通話応答待ちの時（および不在着信時）
白色点滅	緊急アラーム動作時および緊急信号着信時

通話中の「ピピピ」音

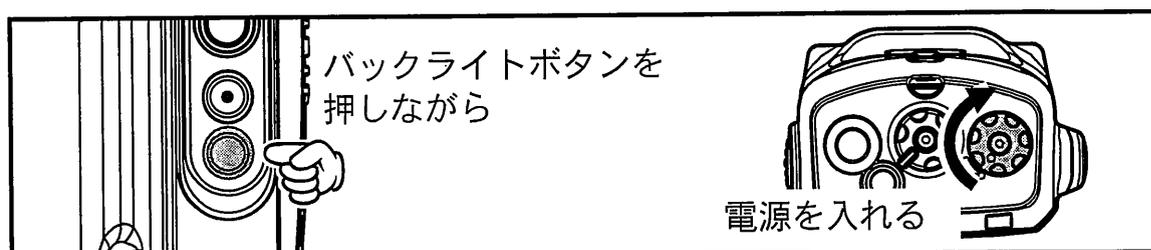
送信中に「ピピピ」という電子音が鳴った場合、速やかに通話を終了してください。
送信を継続すると約20秒後（キャリアセンス方式1の場合は、約10秒後）に自動的に送信が止まり、通話が中断されます。
なお、キャリアセンス方式1で自動的に送信が中断された場合、その後1分間は送信することができません。

通信の拡張機能　～コールモード～

IDやユーザーコードなど、通信時に使用する情報や機能の設定（10項目）をおこなうことができます。

項目	初期値	設定値	機能
C01 モード	UC	UC/コベツ	UC通信と、個別通信の切り換え
C02 UC	000	000～511	ユーザーコードの設定
C03 UCベル	0	0/1/2/3	同一UC呼び出し電子音の回数設定
C04 ジキョクID	001	001～200	自局IDの設定
C05 グループID	201	201～230	グループIDの設定
C06 コベツベル	1	0/1/2/3/4/5	個別呼び出し電子音の回数設定
C07 グループベル	0	0/1/2/3	グループ/一斉呼び出し時の電子音の回数設定
C08 コベツアテサキ	カヘン	カヘン/コテイ	個別通信時の呼び出し先表示の設定
C09 ツウワホジ	5s	5s/10s/15s 30s/60s	個別通信時の通話保持時間の設定
C10 ヒワ	OFF	OFF/$01～$20	OFFまたは、プリセット秘話コードの選択 あらかじめ$01～$20に、最大20種類の秘話鍵をプリセット可能。

拡張機能の基本的な操作方法を下記に記します。
各項目の具体的な操作方法は、次ページ以降を参照してください。

一度電源を切り、バックライトボタンを押しながら、電源を入れます。

補足　ディスプレイに“GDR3500”に続いて“Call Mode”が約１秒間表示されます。
“PASS?”が表示される場合は、拡張機能の設定操作が禁止されていますので、お買い上げいただきました販売店に御相談ください。

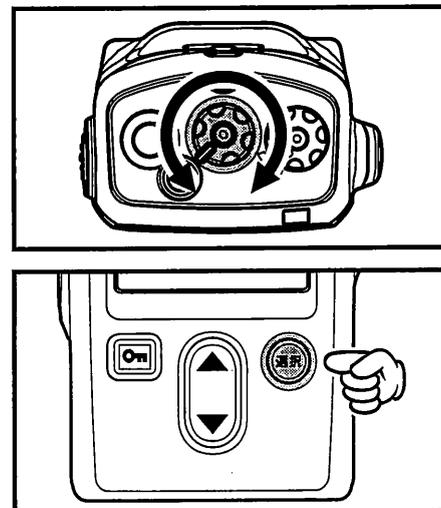
Call Mode

１秒間表示される

2 ロータリースイッチをまわして、設定したい項目の表示にあわせます。

3 “選択”ボタンを押します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望の設定値を選択します。

5 “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

C01 モード

UC 通信と個別通信を切り換えることができます。

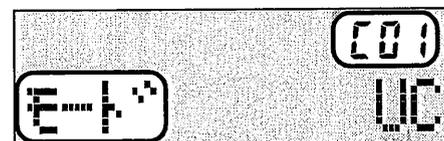
1 バックライトボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能画面にします。

2 “モード”“C01”の表示になっていることを確認します。

3 “選択”ボタンを押します。
現在の通信方式が点滅します。

現在の通信方式

4 ロータリースイッチをまわして、希望の通信方式を選択します。
“UC”：　UC 通信方式で運用するとき。
“コベツ”：　個別通信方式で運用するとき。

5 “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

C02 UC

UC(ユーザーコード)を変更することができます。

1 バックライトボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能画面にします。

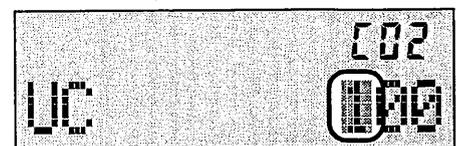
2 ロータリースイッチをまわして、“UC”“C02”の表示にあわせます。

現在のユーザーコード

注意 ユーザーコードの代わりに“CH”が表示される場合は、すでにチャンネルごとにユーザーコードが設定されており、変更することができません。
また、現在の値が表示されていても、次の3の操作にて“選択”ボタンを押しても値が変更できない場合は、販売店によりUCの変更が禁止された状態になっています。
これらの状態でUCの変更が必要な場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

3 “選択”ボタンを押します。
ユーザーコードの百の桁で、カーソルが点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望の数字を選択します。

注意
- 設定できるユーザーコードは“000”～“511”です(511以上の数字にあわせることはできますが、設定することはできません)。
- ユーザーコードの“000”は、特別なユーザーコードとして扱われ、受信時は、コードが異なる信号も受信できますが、送信時は“000”を設定している相手としか、通信することができません。

5 ▲ボタンを押すと、カーソルが右の桁に移動します。
▼ボタンを押すと、カーソルが左の桁に移動します。

6 4と5の操作を繰り返して、3桁のユーザーコードを設定します。

7 "選択" ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

C03 UCベル　～UC通信で使用する設定です～

UC通信で運用中、同一UCの他局から呼び出しを受けた時に鳴る電子音の回数を、変更することができます。

1 バックライトボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能画面にします。

2 ロータリースイッチをまわして、"UCベル" "C03" の表示にあわせます。

現在の電子音が鳴る回数

3 "選択" ボタンを押します。
電子音が鳴る回数が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望の回数を選択します。

C03
UCベル　3

補足
- 設定できる回数は "0" ～ "3" です。
- "0" に設定すると、呼び出し電子音は鳴らなくなります。

5 "選択" ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

C04 ジキョク ID ～個別通信で使用する設定です～

無線機に設定されている ID を変更することができます。

1 バックライトボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能画面にします。

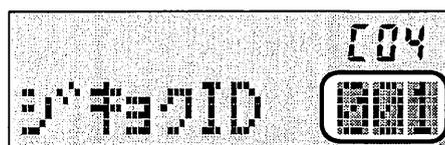
2 ロータリースイッチをまわして、“ジキョク ID”“C04”の表示にあわせます。

現在の自局 ID

3 “選択” ボタンを押します。
現在の自局 ID が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望のIDを選択します。

注意
- あらかじめ登録してあるIDしか、選択することはできません。
- 登録されている以外の ID を御希望の場合は、お買い上げの販売店に御相談ください。

5 “選択” ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

C05 グループ ID ～個別通信で使用する設定です～

無線機に設定されているグループ ID を変更することができます。

1 バックライトボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能画面にします。

2 ロータリースイッチをまわして、“グループID”“C05”の表示にあわせます。

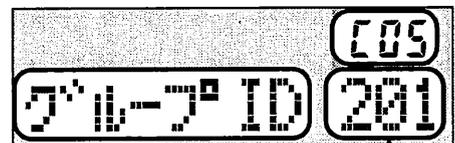
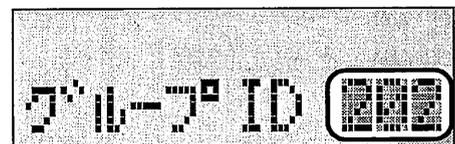
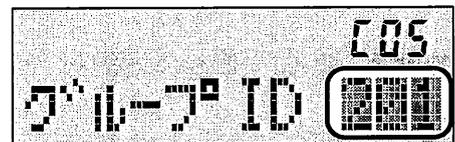
現在のグループ ID

注意 現在のグループ ID に“ALL”が表示されている場合は、販売店により複数のグループ IDが登録されています。変更が必要な場合はお買い求めの販売店にご相談ください。

3 “選択”ボタンを押します。
現在のグループ ID が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望のIDを選択します。

- あらかじめ登録してあるIDしか、選択することはできません。
- 登録されている以外の ID を御希望の場合は、お買い上げの販売店に御相談ください。

5 “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

C06 コベツベル ～個別通信で使用する設定です～

個別呼び出しを受けた時に鳴る電子音の回数を、変更することができます。

1. バックライトボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能画面にします。

2. ロータリースイッチをまわして、“コベツベル”“C06”の表示にあわせます。

3. “選択”ボタンを押します。
電子音が鳴る回数が点滅します。

現在の電子音が鳴る回数

4. ロータリースイッチをまわして、希望の回数を選択します。

補足 設定できる回数は“0”～“5”です。

5. “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

C07 グループベル ～個別通信で使用する設定です～

グループ／一斉呼び出しを受けた時に鳴る電子音の回数を、変更することができます。

1. バックライトボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能画面にします。

2. ロータリースイッチをまわして、“グループベル”“C07”の表示にあわせます。

3. “選択”ボタンを押します。
電子音が鳴る回数が点滅します。

現在の電子音が鳴る回数

4. ロータリースイッチをまわして、希望の回数を選択します。

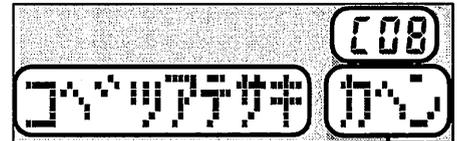
補足 設定できる回数は“0”～“3”です。

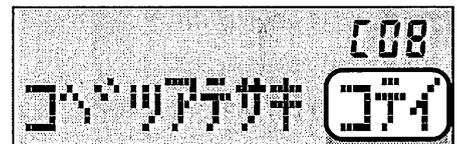
5. “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

C08 コベツアテサキ ～個別通信で使用する設定です～

応答待ち時間（通話タイマー）が経過して、待機状態に戻る際の、呼び出し先表示の条件を設定することができます。

1 バックライトボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能画面にします。

2 ロータリースイッチをまわして、“コベツアテサキ”“C08”の表示にあわせます。

3 “選択”ボタンを押します。
現在の表示設定が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望の表示方法を選択します。
“カヘン”：　直前の通話で設定した呼び出し先の ID を表示します。
“コテイ”：　あらかじめ設定している呼び出し先の ID 表示に変わります。

注意 “コテイ”を選択した場合、工場出荷状態では“000”（=ALL）の ID が固定宛先に設定されています。固定宛先の変更が必要な場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

5 “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

C09 ツウワホジ ～個別通信で使用する設定です～

応答待ち時間（通話タイマー）の時間を設定することができます。

1 バックライトボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能画面にします。

2 ロータリースイッチをまわして、“ツウワホジ”“C09”の表示にあわせます。

3 “選択”ボタンを押します。
現在の設定時間が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望する応答待ち時間を選択します。

補足 設定できる時間は“5s”(5秒)、“10s”(10秒)、“15s”(15秒)、“30s”(30秒)、“60s”(60秒)です。

5 “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

C10 ヒワ

秘話通信機能の OFF および、秘話コードの選択を行います。

補足 秘話通信機能を使用するには、あらかじめ秘話コードを設定しておく必要があります。詳しくはお買い上げの販売店に御相談ください。

1 バックライトボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能画面にします。

2 ロータリースイッチをまわして、“ヒワ”“C10”の表示にあわせます。

注意 “ALL OFF”が表示される場合は、秘話機能の使用が禁止されていますので、設定を行うことはできません。

3 “選択”ボタンを押します。
現在の設定が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、秘話通信機能の OFF または秘話コードを選択します。

“$01 ～ $20”：　設定した秘話コードで秘話機能が動作します。

“OFF”：　秘話通信機能がオフになります。

5 “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

・秘話通信機能が動作しているときは、ディスプレイに“秘”が点灯します。

・交信したい相手の無線機にも、同じ秘話コードが設定されていないと、交信することはできません。

・お互いの秘話コードが異なる場合は、相手の音声を電気的に秘話処理した電子音が聞こえるだけで、通話内容を正しく聞き取ることができません。

・秘話信号を受信すると、LED ランプが青色で点滅します。

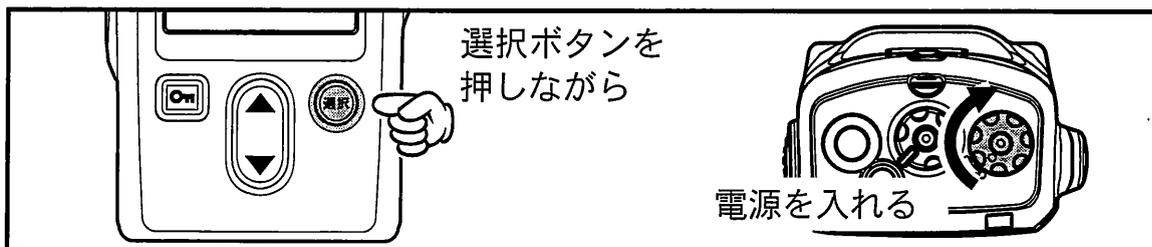
・秘話通信機能が動作しているときに送信すると、LED ランプが青色で点灯します。

無線機の詳細設定 ～セットモード～

本機に内蔵された、各機能の設定(10 項目)をおこなうことができます。

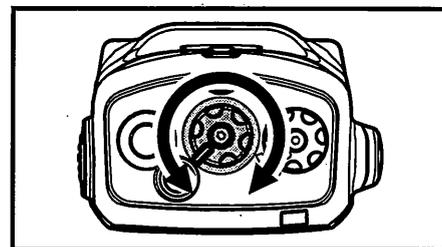
項 目	初期値	設定値	機 能
F01 ビープレベル	12	00 ～ 15	操作音の音量設定
F02 ガイブマイク	0	+10/+6/+3/0 -3/-6/-12/-18	外部マイクのマイク感度設定
F03 ナイブマイク	+6		本体内蔵マイクのマイク感度設定
F04 ロータリー	チャネル	チャネル /ID	ロータリースイッチの動作設定
F05 ロック	FRNT +TOP	PTT/FRNT/TOP ALL/FRNT+TOP	ロック範囲の設定
F06 キンキュウ	BP	T/BP/OFF/BP+T	緊急アラーム機能の動作設定
F07 TX ビープ	OFF	ON/OFF	送信開始時の電子音設定
F08 RX ビープ	OFF	ON/OFF	相手局の送信終了音の設定
F09 スケルチレベル	08	00 ～ 12	スケルチレベルの設定
F10 TX パワー	High	High/Low/ キンシ	送信出力の設定

セットモードの基本的な操作方法を右ページに記します。
各項目の具体的な操作方法は、46 ページ以降を参照してください。

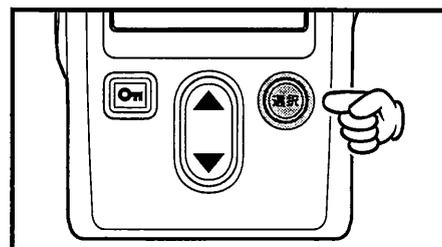
1 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら、電源を入れます。

補足 ディスプレイに“GDR3500”に続いて“Set Mode”が約１秒間表示されます。
“PASS?”が表示される場合は、無線機の詳細設定操作が禁止されていますので、お買い上げいただきました販売店に御相談ください。

Set Mode

１秒間表示される

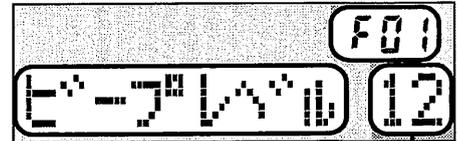
2 ロータリースイッチをまわして、設定したい項目の表示にあわせます。

3 “選択”ボタンを押します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望の設定値を選択します。

5 “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

F01 ビープレベル

ボタンやスイッチを押したときに鳴る確認音の、音量を設定することができます。

1 “選択” ボタンを押しながら電源を入れ、セットモードにします。

2 ロータリースイッチをまわして、“ビープレベル”“F01” の表示になっていることを確認します。

3 “選択” ボタンを押します。
現在の音量レベルが点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望の音量を選択します。

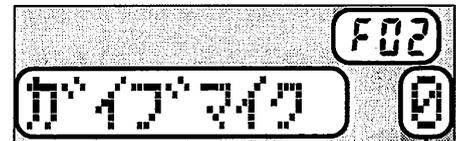
補足 設定できる音量レベルは “00” ～ “15” です。

5 “選択” ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

F02 ガイブマイク

外部マイクロホンのマイク感度を設定することができます。

1 “選択” ボタンを押しながら電源を入れ、セットモードにします。

2 ロータリースイッチをまわして、“ガイブマイク” “F02” の表示にあわせます。

現在のマイク感度

3 “選択” ボタンを押します。
現在のマイク感度が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望の感度を選択します。

補足 マイク感度は、下記の8段階から選択することができます。

（低）“-18” ↔ “-12” ↔ “-6” ↔ “-3” ↔ “0”（標準）↔ “+3” ↔ “+6” ↔ “+10”（高）

5 “選択” ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

F03 ナイブマイク

無線機本体に内蔵してあるマイクの、マイク感度を設定することができます。

1 “選択” ボタンを押しながら電源を入れ、セットモードにします。

2 ロータリースイッチをまわして、“ナイブマイク”“F03” の表示にあわせます。

3 “選択” ボタンを押します。
現在のマイク感度が点滅します。

現在のマイク感度

4 ロータリースイッチをまわして、希望の感度を選択します。

補足 マイク感度は、下記の 8 段階から選択することができます。

(低) “-18” ↔ “-12” ↔ “-6” ↔ “-3” ↔ “0” ↔ “+3”↔ “+6” (標準)↔ “+10” (高)

5 “選択” ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

F04 ロータリー

ロータリースイッチの動作を変更することができます。

1 “選択”ボタンを押しながら電源を入れ、セットモードにします。

2 ロータリースイッチをまわして、“ロータリー”“F04”の表示にあわせます。

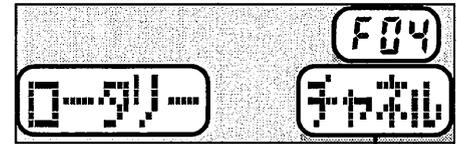
現在の動作

3 “選択”ボタンを押します。
現在の動作が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望の表示方法を選択します。

“チャネル”：　ロータリースイッチをまわすと、運用チャンネルが変わります。

“ID”：　ロータリースイッチをまわすと、呼び出し先IDが変わります。

5 “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

F05 ロック

ロック機能を動作させたときの、ロックさせる条件を設定することができます。

1 “選択” ボタンを押しながら電源を入れ、セットモードにします。

2 ロータリースイッチをまわして、“ロック” “F05” の表示にあわせます。

現在のロック範囲

3 “選択” ボタンを押します。
現在のロック範囲が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望のロック範囲を選択します。

“FRNT+TOP”：　ロータリースイッチと無線機前面にあるボタンがロックされます。

“PTT”：　送信ボタンがロックされます。

“FRNT”：　無線機前面にあるボタンがロックされます。

“TOP”：　ロータリースイッチがロックされます。

“ALL”：　ロータリースイッチ、無線機前面にあるボタン、送信ボタンがロックされます。

5 “選択” ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

補足

- 本機を “受信専用機” として使用する場合は、送信操作を禁止するために “PTT” に設定してください。
- モニターボタン、バックライトボタン、緊急ボタンはロックされません。

F06 キンキュウ

緊急アラーム機能の動作を設定することができます。

1 “選択” ボタンを押しながら電源を入れ、セットモードにします。

2 ロータリースイッチをまわして、“キンキュウ” “F06” の表示にあわせます。

3 “選択” ボタンを押します。
現在の動作が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望の動作を選択します。

“BP”： 設定した無線機のスピーカーから、緊急アラームを鳴らし、LEDランプを白色で点滅させます。

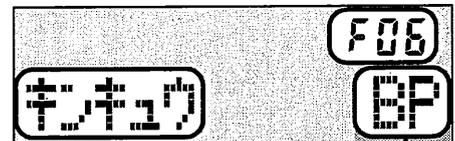
“T”： 自局のIDを含んだ緊急信号を数秒間送出することで、同じチャンネルで同じユーザーコードの無線機に、自局のIDを表示させると同時に、緊急を知らせます。信号送出後は、LEDランプが白色で点滅します。

※ この設定は、個別通信時のみ動作いたします。UC通信時は動作いたしません。

“BP+T”： 上記“T”の動作を行った後、“BP”の動作を行います。

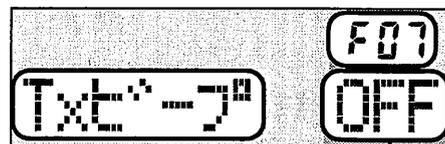
※ この設定は、UC通信時には“BP”の動作を行います。

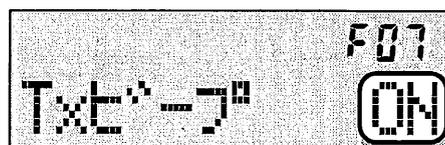
“OFF”： 緊急アラーム機能は動作しません。

5 “選択” ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

F07 TX ビープ

送信開始時に、通話ができる状態になったことを知らせるために鳴るビープ音を、ON/OFF することができます。

1 “選択” ボタンを押しながら電源を入れ、セットモードにします。

2 ロータリースイッチをまわして、“TXビープ” “F07” の表示にあわせます。

3 “選択” ボタンを押します。
現在の設定が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、TXビープの ON/OFF を選択します。

“ON”： TX ビープが動作し、通話ができる状態になるとビープ音が鳴ります。

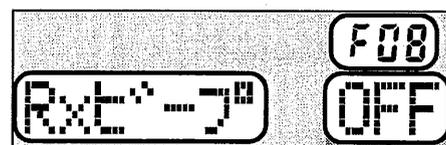
“OFF”： TX ビープの動作がオフになります。

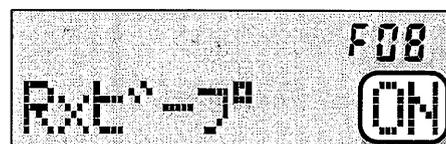
5 “選択” ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

F08 RXビープ

受信中の通話が終了したことを知らせるために鳴るビープ音を、ON/OFFすることができます。
個別通信時または、"000"以外の同じユーザーコードに設定してある相手局の信号を受信した時のみ動作します。

1 "選択"ボタンを押しながら電源を入れ、セットモードにします。

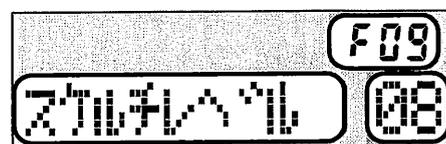
2 ロータリースイッチをまわして、"RXビープ""F08"の表示にあわせます。

3 "選択"ボタンを押します。
現在の設定が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、RXビープのON/OFFを選択します。
"ON"： RXビープが動作し、通話ができる状態になるとビープ音が鳴ります。
"OFF"： RXビープの動作がオフになります。

5 "選択"ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

F09 スケルチレベル

受信信号の強弱によって受信動作を開始させるレベルを設定することができます。

1 “選択” ボタンを押しながら電源を入れ、セットモードにします。

2 ロータリースイッチをまわして、“スケルチレベル” “F09” の表示にあわせます。

現在のスケルチレベル

3 “選択” ボタンを押します。
現在のスケルチレベルが点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望のスケルチレベルを選択します。
・設定できるレベルは “00” ～ “12” です。

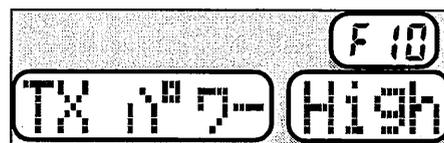
5 “選択” ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

補足 スケルチレベルを “00” に設定すると電波を受信していなくても LED が常に緑色で点滅した状態になり、電池持続時間が短くなります。通常は “00” 以外の値でご使用ください。

F10 TXパワー

送信出力(発射する電波の強さ)を“High”(5W)と“Low”(1W)または、送信を禁止する“キンシ”から選択することができます。距離の近い相手と交信するときや、電池の消耗を抑えるときには、送信出力を“Low”に、本機を受信専用機として使用する場合は“キンシ”に設定してください。

1 “選択”ボタンを押しながら電源を入れ、セットモードにします。

2 ロータリースイッチをまわして、“TXパワー”“F10”の表示にあわせます。

3 “選択”ボタンを押します。
現在の設定が点滅します。

4 ロータリースイッチをまわして、希望の設定を選択します。

“High”: 送信出力が5Wに設定されます。

“Low”: 送信出力が1Wに設定されます。

“キンシ”: 送信ボタンを押しても、送信しなくなります。

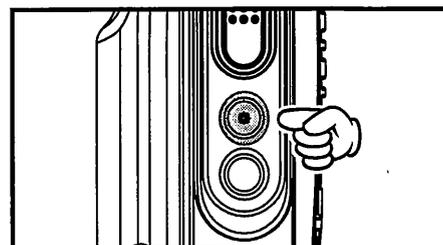
5 “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。

補足 出荷時の設定で、周波数ごとの送信出力設定が“Low”に設定されている場合は、上記のTXパワーの設定値が“High”となっていても実際の送信出力は“Low”(1W)となります。

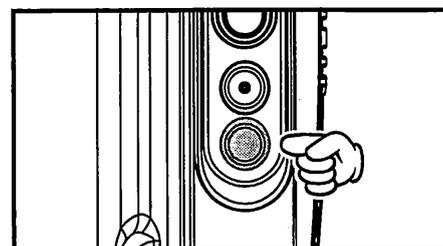
その他の便利な機能

●モニター機能

モニターボタンを押している間は、異なるUC(ユーザーコード)の信号でも音声をモニターすることができます。

秘話通信機能が動作している無線機の音声を、モニターすることはできません。

●ディスプレイの照明を点灯する

バックライトボタンを押すと、ディスプレイの照明が、約5秒間点灯します。

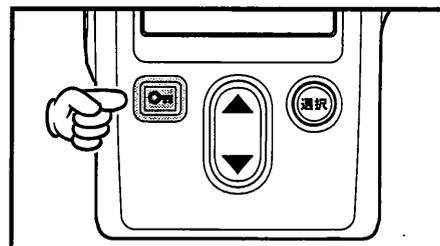
照明が点灯中にバックライトボタンを押すと、照明を消すことができます。

●ビープ音によるチャンネル確認

"チャンネル1"に合わせた時、"ポピピ"というビープ音が鳴りますので、無線機を腰につけて、液晶画面が確認できないような場合でも、チャンネル1を確認することができます。

●ロータリースイッチやボタン類をロックする

誤ってロータリースイッチや、各ボタンに触れても、チャンネルなどの設定が変わらないようにすることができます。

“🔑”ボタンを2秒間押し続けると、ディスプレイに“🔑”が点灯し、ロータリースイッチや各ボタンがロックされます。

ロックが動作中に、ロータリースイッチや、各ボタンを押すと、ディスプレイに約1秒間“- LOCK -”が表示され、ロック中であることを知らせます。

ロックを解除するには

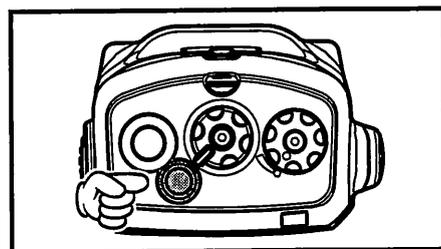
ロックが動作中に“🔑”ボタンを2秒間押し続けるとロックが解除されます。
ディスプレイの“🔑”表示が消えます。

※ロックするボタンの設定については、50ページの“F05 ロック”を参照してください。

●緊急を知らせる ～緊急アラーム機能～

不慮の事故などの緊急事態を、アラーム音とLEDの点滅で周囲に知らせることができます。
アラーム音量の設定やアクセサリへのアラーム音のON/OFFなどの設定は、お買い上げの販売店に御相談ください。

緊急アラーム機能の動作は、51ページの“F06 キンキュウ”に記載してある方法で変更することができます。

“コールチャンネル／緊急”ボタンを3秒以上押すと、51ページに記載の“F06 キンキュウ”で設定した動作をおこないます。

緊急アラーム機能の動作を停止させるには、電源を切ってください。

緊急信号を受信したとき

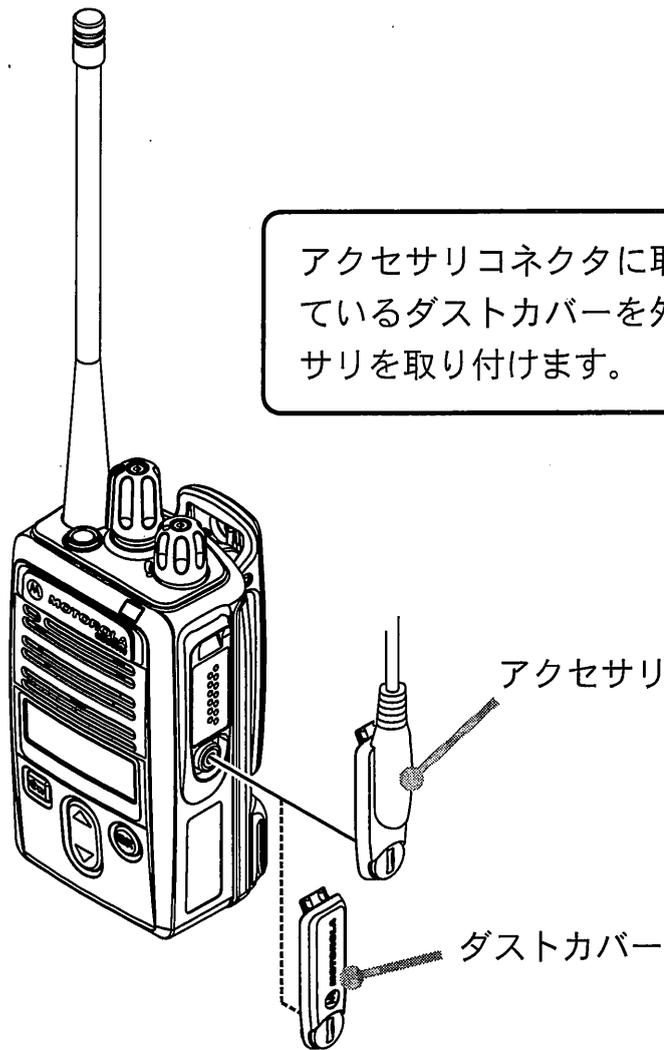
個別通信時に緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局のIDを表示し、LEDランプが白色で点滅します。
さらに、しばらく何も操作をおこなわないと、電子音が鳴り続けます。

補足 緊急信号を受信したときに、送信ボタンを押して送信すると、自動的に“一斉呼び出し”(同じチャンネルにあわせている、全ての局を呼び出す)に切り替わり、他局と通話することができます。

●秘話通信機能(拡張機能“C10”参照)

設定した32,767通りの秘話鍵が一致する無線機同士のみ交信することができる機能です。

工場出荷時は、秘話コード$01～$20に、あらかじめ秘話鍵として数値を設定しておりますが、ご利用に際し、通話セキュリティーを十分に確保するためには、お買い上げいただきました販売店とご相談の上、32,767通りの秘話鍵から任意に選択した数値を$01～$20に再設定することをお勧めいたします。

アクセサリの取り付け

外部マイクの感度切り替え方法

外部マイクを使用した際、マイクの感度が高すぎる場合は、マイクの感度を下げることができます。

① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れます。

② ロータリースイッチをまわして、ディスプレイに “ガイブマイク” を表示させて、“選択” ボタンを押します。

③ ロータリースイッチで希望の感度を選び、“選択” ボタンを押します。

○マイクの感度は、下記の 8 段階から選択することができます。

(低) “-18” ↔ “-12” ↔ “-6” ↔ “-3” ↔ “0” (標準) ↔ “+3” ↔ “+6” ↔ “+10” (高)

④ “選択” ボタンを押します。

⑤ 電源を切ると設定は終了です。

故障かな？と思う前に

間違った操作をしていませんか？
修理を依頼される前に、ちょっとお確かめください。

◎ 電源が入らない！

・ リチウムイオン電池パックが消耗していませんか？
　➡ リチウムイオン電池パック使用時
　　リチウムイオン電池パックを充電してください。
・ リチウムイオン電池パックの端子が接触不良になっていませんか？
　➡ 端子を乾いた布で拭いてください。
・ リチウムイオン電池パックが古くなっていませんか？
　➡ リチウムイオン電池パックの寿命です。新しいリチウムイオン電池パックとお取り替えください。

◎ 送信できない！

・ 送信ボタンを正しく押していますか？
・ 送信出力の設定が“キンシ”になっていませんか？

◎ 通話できない！

・ 相手局と同じチャンネルに設定していますか？
・ 相手局との距離が離れすぎていませんか？
・ 相手局と同じ通信方式に設定していますか？
・ 相手局と同じユーザーコードに設定していますか？
・ 秘話通信機能が動作していませんか？
　➡ お互いに秘話通信機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、交信することはできません。

定　格

一般

送受信周波数	デジタル簡易無線登録局（6.25kHz 間隔、30 波） 351.200MHz ～ 351.38125MHz
電波型式	F1E
通信方式	単信（プレストーク）方式
電池持続時間	MLB-001（2300mAh） 送信 5W 運用時　約 12 時間 送信 1W 運用時　約 17 時間 （送信 5、受信 5、待ちうけ 90 の繰り返し）
電源電圧	DC 7.4V ± 10%
接地方式	マイナス接地
消費電流	DC 7.4V　送信時　約 1.8A（5W 時） 約 0.8A（1W 時） 受信待ち受け時　約 80mA 受信定格出力時　約 350mA
温湿度範囲	温度　－ 20℃～＋ 60℃ 湿度　95%（35℃）
本体寸法	55.6mm × 98mm × 45mm（MLB-001 使用時）
本体重量	約 335g（MLB-001，ホイップアンテナを含む）

※ RoHS 指令対応

送信部

項目	仕様
空中線電力	5W/1W（＋20%、－50%以内）
空中線インピーダンス	50Ω　不平衡
発振方式	水晶発振制御による周波数シンセサイザー方式
周波数許容偏差	±1.5ppm以内
変調方式	4値FSK
占有周波数帯域幅	5.8kHz以下
最大周波数偏移	±1324Hz以内
隣接チャンネル漏洩電力	－52dB以下（5W時）
スプリアス発射	2.5μW以下
不要輻射	2.5μW以下
標準変調入力	－44dBm±5dB（1kHz　60%変調）
変調入力インピーダンス	600Ω

受信部

項目	仕様
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数	第一　50.85MHz 第二　450kHz
局部発振周波数	第一　受信周波数－50.85MHz 第二　50.4MHz
局発周波数変動	±1.5ppm以内
受信感度	－2dBμV（BER　1×10^{-2}）
スプリアスレスポンス	70dB以上
隣接チャンネル選択度	42dB以上
相互変調特性	60dB以上（±12.5kHz、±25kHz）
スケルチ感度	－10dBμV以下
低周波出力	0.7W以上（10%歪時）
低周波出力インピーダンス	16Ω
副次的に発する電波等の強度	4nW以下

モトローラ製品のお問い合わせ先............ 03-3719-2231
ホームページ.............................. http://motorola-bizunit.jp

仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。

本製品は「外国為替及び外国貿易管理法」(日本)及び「米国輸出管理規制」による規制を受けますので、当製品を輸出する場合は、同法に基づく手続きが必要です。

製造元　株式会社バーテックススタンダード　東京都目黒区中目黒4-8-8
販売元　株式会社スタンダード　東京都目黒区中目黒4-8-8

0907U-0M